

平成30年度 授業改善推進プラン 学年メモ

3年

	児童の実態	学習指導の課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	具体目標	3月 成果と課題
国語	<p>○登場人物の気持ちや場面の様子を叙述に基づいて読みとることができない児童がいる。</p> <p>○文章を書くときに、主語と述語がずれてしまうことがある。</p> <p>○新出漢字が身につけていない児童や作文や日常のノート記述の中で活用することが難しい。</p>	<p>○自分の考えを相手に分かりやすく話したり、相手の話を正しく理解したりする指導が不十分だった。</p> <p>○下書きを推敲し、よりよい表現に書き直す力をつける指導が必要である。</p> <p>○新出漢字を習得させる指導時間が十分にとれていない。</p>	<p>○場面の様子や登場人物の心情を捉えるために、根拠となる言葉を確かめさせたり、対話の学習を取り入れたりする。</p> <p>○下書きと推敲後の文章を比べさせることを大切にする。</p> <p>○ノートや作文を書くときに、国語辞典を活用させて、漢字に親しむことを増やす。</p>	<p>○叙述を基に、情景を図や絵で描かせたり、国語辞典で語句を正しく捉えさせたりして、一文ごとの内容を確認させる。</p> <p>○長い文を接続詞を用いて二つの文に分けて書く学習を行う。</p> <p>○授業の最初や放課後等の時間を活用して漢字学習ができるよう計画的に指導する。</p>	<p>○児童の80%が、登場人物の心情や情景を正しく捉え、言葉や文章で説明することができる。</p> <p>○児童の80%が、文と文のつながり方に気を付けて文章を組み立てることができる。</p> <p>○全員が、作文などの文章で、既習漢字の80%を使うことができる。</p>	
社会	<p>○地域の様子を四方位から読み取ることが難しい場面がある。</p> <p>○見学などで調べたことや資料から必要な情報を取り出し、比較・関連付けして考えることが難しい。</p> <p>○学習したことを、ノートやワークシートに工夫して表現することができない場面が見られる。</p>	<p>○地図にある方位記号に着目させる指導が不十分だった。</p> <p>○問題を解決していく学習活動を意図的・計画的に取り入れる必要がある。</p> <p>○単元の導入時に日常生活を振り返らせながら、身近な課題を提示する必要がある。</p>	<p>○日々の学習の中で地図を活用することに慣れさせる。</p> <p>○見学の際の観点を示し、特にその観点について調べることができるようにする。それを基に、比較・関連付けをさせることに重点を置いた学習活動を取り入れる。</p> <p>○新聞の記事を教材として用いて、社会的な事象に関心をもたせる。</p>	<p>○3年生の終わりまでに八方位から読み取り考えることができるようにする。</p> <p>○色分けしたり、線で囲ったりして自分の考えが見えるようにする。</p> <p>○児童が学習課題を考え、課題を意識して追究できる授業展開するためにノートの書き方を指導したり、ワークシートを工夫したりする。</p>	<p>○全員が、八方位を活用した見方考え方ができるようにする。</p> <p>○児童の80%が比較・関連して分かったことを、自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>○児童の90%が、学習内容を基に日常生活について、結び付けて考えることができる。</p>	
算数	<p>○言葉や定義について正しく理解し、問題場面において活用して考えることが難しい児童がいる。</p> <p>○計算や作図について、正確さに欠けていたり時間がかかったりする児童がいる。</p>	<p>○考えを一般化して捉えさせるとともに、活用場面を問題として取り組ませる学習が不十分だった。</p> <p>○図や数直線で考え方を表すと分かりやすくなることを実感できるように指導する必要がある。</p>	<p>○立式の根拠や筋道を発表する学習を積極的に行う。</p> <p>○数直線などで表す経験を増やし、図と関連付けて考えさせる。</p> <p>○面積では、具体的な広さを提示して量感を育てるようにする。</p>	<p>○用語、定義、性質について繰り返し指導をする。活用場面を文章題で提示して、考えさせることで定着を図る。</p> <p>○計算、作図の問題を多く取り組ませる。必要な既習事項を復習させる。</p>	<p>○児童の90%が、課題解決の方法を自分なりに考えることができる。</p> <p>○児童の80%が、式の意味を説明することができる。</p> <p>○児童の90%が、正確に計算したり、作図したりできる。</p>	
理科	<p>○観察結果を考察し、比較・検討することができない場面が見られる。</p> <p>○科学的な思考力や表現力が十分に身に付いていない児童がいる。</p>	<p>○観察・実験に目的意識をもたせたり、結果から分かったことを図や言葉で表現できるようにする指導が不十分だった。</p> <p>○日常生活と自然現象を関連付ける学習を充実し、思考力の向上を図る指導が不十分だった。</p>	<p>○体験的な活動を多く取り入れて「知りたい・確かめてみたい」という主体的な学びにつなげる。</p> <p>○自然現象の差異点や共通点という視点から比較しながら調べて見いだした問題を追究する活動ができるようワークシートや資料を工夫する。</p>	<p>○観察・実験器具の技能を確実に習得させる。</p> <p>○学習を通して身に付けた知識を活用して、ものづくりを行う。</p>	<p>○児童の90%が、対象を正確に捉え、形状を絵や図で表すことができる。</p> <p>○児童の80%が、実験の仕方を考えることができる。</p> <p>○児童の90%が、対象を比較して捉えることができる。</p>	
体育	<p>○体を動かすことが好きな児童が多い。しかし、器械運動の能力的な個人差が大きく、それぞれの目標をもって取り組む必要がある。</p> <p>○技を身に付けるために自分で意欲的に取り組むことが難しい児童がいる。</p>	<p>○きまりや規則を守り、安全に気を付けることができるように指導する必要がある。</p> <p>○目標になる動きや数値を考えさせるよう指導することが不十分だった。</p>	<p>○きまりや規則を明確にする。</p> <p>○安全面に気を付けさせる。</p> <p>○よい動きを共有するための時間を設定し、対話的な学びになるようにする。</p>	<p>○きまりや規則について個別指導で理解させる。</p> <p>○技の習得をスモールステップで取り組ませる。</p>	<p>○きまりや規則を守って活動ができる。</p> <p>○安全に注意し、事故の防止に努めることができる。</p> <p>○児童の80%が、技の習得のためにコツや工夫について発表することができる。</p>	